



神奈川災害ボランティアネットワークNEWS

発行：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2 かながわ県民サポートセンター 11階
Fax：045-324-1120 E-mail:jimuk.ksvn@gmail.com



神奈川災害ボランティアネットワーク 第 12 回定期総会

関東大震災から 100 年、大災害への備え

NPO 法人
神奈川災害ボランティアネットワーク

理事長 河西 英彦



新型コロナ蔓延下、活動の自粛から待望の感染症 5 類となり、本年は全ての活動が回復期となり 2023 年度総会も明るく活気が見えてきました。法人化 10 周年の記念行事も規模は縮小しましたが、2 月 26 日に開催できました。西日本水害の岡山県総社市の片岡聡一市長からビデオメッセージを頂くと共に、多くのご来賓の皆様から祝辞を頂きました。そして 1997 年 KSV ネット設立以来の活動をビデオ収録(アーカイブ)とし、記念品とすることができました。

今年度は関東大震災から 100 年。節目の年、神奈川県内の大災害発生時、復興支援体制が速やかに効率的に活動移行すべく、これを機に神奈川ワンチーム体制の構築を手掛けていきます。「神奈川災害支援連絡会」を設立のベースとして、いち早く賛同して下さった広域団体の神奈川県生活協同組合連合会・神奈川県農業協同組合中央会・神奈川県弁護士会・神奈川ロータリークラブ様を中心に、本年度中に情報共有会議を多くの団体と共に開催する準備を進めます。

内閣府の主催する「ぼうさいこくたい 2023」。本年は関東大震災の震源地であり大災害を経験した神奈川県が開催地となり、内閣府・神奈川県を主体として関係団体が共同し横浜国立大学を会場に開催されました。参加希望団体 400 を超え、厳選の上会場配置となった。KSV ネットはメインストリートの中心に大型テント単独使用、①専門性のある参加型、ボランティアセンター ICT 体験コーナー：100 人を超える参加、②大人から子供まで気軽にできる防災教育「防災クイズ」1,000 人を超える参加、③神奈川県特有の大災害時支援体制「四者協定」の組織・活動説明コーナー、等を行い多くの県民及び他府県の皆様に当団体の活動を理解して頂くことができました。今後の協働活動に繋げていきます。

被災地支援活動はイザ”時、受援活動に繋がる！ 引き続き、皆様のご協力をお願いします。

神奈川災害ボランティアネットワーク ホームページ URL: <https://ksvn.org/>

セキュリティ強化のため URL を変更しました



神奈川災害ボランティアネットワーク 第 12 回定期総会

2023 年 6 月 13 日(火) に開催され、議案については全員一致で可決承認されました。

会場: かながわ県民センター 11 階 講義室 2、オンライン併用

出席状況: 会員定数 33 会場出席 13、オンライン出席 6、委任出席 6

議案提案: 第1号議案 2022 年度(令和 4 年度)活動報告

第2号議案 2022 年度(令和 4 年度)会計報告、会計監査報告

第3号議案 2023 年度(令和 5 年度)事業計画(案)

第4号議案 2023 年度(令和 5 年度)予算(案)

御来賓: 能戸一憲氏(神奈川県暮らし安全防災局防災部危機管理防災課課長)

清水明氏(かながわ県民活動サポートセンター所長)

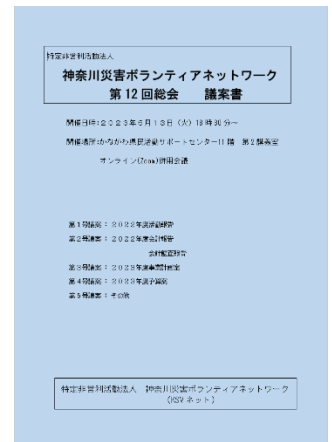
中山博也氏(かながわ県民活動サポートセンターボランティア活動サポート課課長)

志田淳一氏(神奈川県社会福祉協議会地域福祉部地域課課長)

中島孝夫氏(神奈川県共同募金会事務局長)

池田博毅氏(神奈川県弁護士会災害対策委員会副委員長)

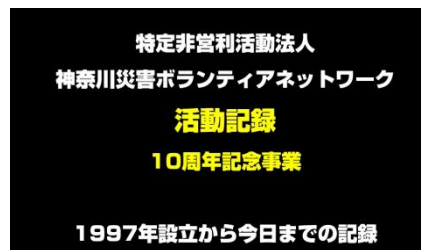
岩堀義一氏(神奈川県農業協同組合連合会総務企画部部长)



◆ 2022年度 決算・活動報告(抜粋)

2020 年の新型コロナウイルス感染症拡大以来、防災訓練・イベント等の中止、延期が続いていましたが、22 年度になり感染予防対策を講じながら開催できるようになりました。

NPO 法人化 10 周年記念事業として 10 周年記念誌の発行、活動記録映像の作成、記念式典を開催した。横浜市総合防災訓練、ビッグレスキューかながわ葉山へのブース出展参加、県支援センター情報伝達訓練参加、横浜市中区打越がけ崩れ被害対応等の活動を行いました。



法人設立 10 周年記念誌と動画を作成しました



2022 年度横浜市総合防災訓



3.11 東日本大震災追悼 キャンドルイベント

2022 年度収支決算概要

2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日(単位:円)

科目	金額	
1. 経常収益		
・受取会費	330,000	
・受取寄付金	131,500	
・受取助成金	910,000	
・事業収益	25,000	
・その他収益	8,532	
経常収益計		1,405,032
2. 経常費用		
・事業費計	1,194,571	
・管理費計	264,603	
経常費用計		1,459,174
当期正味財産増減額		△54,142
前期繰越正味財産額		5,006,944
次期繰越正味財産額		4,952,802

◆ 2023年度 活動・予算計画(抜粋)

2023年度は「関東大震災から100年」にあたり、内閣府主催の「ぼうさいこくたい 2023」及び神奈川県主催「関東大震災 100年事業」の開催が予定されています。これらに参加し県民の防災意識の高揚を図ります。

また、委員会活動においてICTの活用を更に進め、実効性のあるものとしていきます。法人の事業目的に沿った活動の推進は、委員会活動の充実にかかっています。ますますの活動の活性化を図らなければなりません。



2023年度予算概要

2023年4月1日～2024年3月31日(単位:円)

科目	金額	
1. 経常収益		
・受取会費	343,000	
・受取寄付金	0	
・受取助成金	900,000	
・事業収益	25,000	
・その他収益	10,000	
経常収益計		1,278,000
2. 経常費用		
・事業費計	970,000	
・管理費計	280,000	
経常費用計		1,250,000
当期正味財産増減額		28,000
前期繰越正味財産額		4,952,802
次期繰越正味財産額		4,980,802

NPO 法人化 10 周年記念事業

NPO 法人化 10 周年記念事業として 10 周年記念誌の発行、活動記録映像の作成、記念式典を開催しました。

1995年1月17日に発災した阪神・淡路大震災は、関連死を含め6,432名が亡くなり、行方不明者3名、負傷者4万3,792名。行政も被災しインフラも大きく壊れた大災害でした。当時、被災地には1年で延べ130万人ものボランティアが駆けつけました。災害ボランティア元年と言われています。この大震災を教訓に、県内では災害時に備え、各地で平常時からの活動が始まりました。その団体設立指導とボランティア団体間の「顔の見える関係づくり」をと、1997年に神奈川災害ボランティアネットワークが設立されました。

未曾有の大災害、東日本大震災支援活動に、神奈川県行政・神奈川県社会福祉協議会・神奈川災害ボランティアネットワークの三者がステーション事業を開設し、被災地にボランティアバスを派遣しました。遠野の金太郎ハウスを拠点に支援活動を展開しました。その経験を活かし県内の被災時に支援センターを開設し、被災市町村の支援活動を行う組織、神奈川県行政・神奈川県社会福祉協議会・神奈川県共同募金会・神奈川災害ボランティアネットワークの「四者協定」を締結しました。その活動団体として又県域団体を代表する団体の必要性から法人化を目指しました。

県内地域のボランティアと連携を図り、互いに助け合う市民社会の形成を目指す事業を行うことにより、災害時に、効果的な活動ができる体制をつくり、また全国各地の

災害に遭遇した被災地の救援活動を行うことで、安心して安全な社会の構築に寄与することを目的として NPO 法人化の準備を始め、2012年3月5日に認可されました。

2023年2月26日(日)、記念式典ではコロナ禍及び地方選挙前ということもあり盛大に式典を行うことは叶いませんでしたが、四者協定のかながわ県民サポートセンター、神奈川県社会福祉協議会、神奈川県共同募金会を来賓に迎えて行うことができました。

当日は、会場 20 名、オンライン 15 名の参加があり、第 1 部: 来賓各位からの祝辞、NPO 法人化以降の「KSV ネット活動記録映像」視聴、「KSV ネットロゴマーク付きビブス」の紹介。第 2 部: 総社市市長よりのビデオメッセージ、シンポジウムとして県生協連、県弁護士会、県農協中央会、神奈川オータリークラブより、災害時の対応、社会貢献事業について報告を受けました。

大災害には長期に渡る支援が必要となり、様々な団体との連携が不可欠で、今回のシンポジウムは県内での広域大災害に備えた関係づくりの第 1 歩となりました。



県サポートセンター11階 講義室 1 にて

被災地支援活動

◆ 横浜がけ崩れ被害対応

横浜市中区打越の住宅街で発生した擁壁崩落による土砂災害の処理が進まず、避難指示解除に向けてボランティア活動の依頼がありました。中区社協と協議の上、安全性を考慮して 12 月から 2 月までの間、延べ 160 人が活動に参加し約 80～90 トンの土砂・瓦礫の移動搬出を行い終了した。住宅近くに見られる擁壁の危険性を実感する活動となりました。災害指定の無い現場のため、ダンプリース代など会員からのカンパで賄いました。ご協力に感謝いたします。
(実施時期:2022 年 12 月から 2023 年 2 月)



Supported by  日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

この事業は日本財団の「災害復興支援活動 団体助成金」を活用しました。

被災地復旧ボランティアバス派遣

◆ 令和5年7月秋田県大雨災害 秋田市被災地復旧支援

秋田1便:活動日9月2日(土) 参加者 22 名

貴重品・思い出の品など処分品の分別。処分品は依頼者に最終確認の上処理。材木・土砂の搬出、ガラスの取り除き。家具の搬出、床の清掃。障子はがし、ピアノ移動。泥出し等の活動を行いました。

秋田2便 活動日9月9日(土)参加者 22 名

空き家からの畳・家財の搬出、搬出済みの家財の集積場所への移動、床清掃。障子はがし、側溝泥だし、土嚢作り等の活動を行いました。両便とも活動前日夜横浜出発、翌日朝横浜帰着の強行軍でしたが、神田交通(株)様のご協力を得て無事に活動できました。



◆ 令和5年台風 13 号いわき市被災地復旧支援

いわき1便:活動日 10 月8日(日) 参加者 15 名

泥出し/食器棚分解搬出/草刈り後の草の片付け(袋詰め)等の活動を行いました。

いわき2便:天候不良により現地災害ボランティアセンター活動休止のため中止。

いわき3便:活動日 10 月 22 日(日) 参加者 21 名

側溝の枯木・ごみ・泥の土嚢袋への詰め込み・集積/水害ごみ収集・分別、土嚢袋・ゴミ袋への詰め込み・集積等の活動を行いました。両便とも活動前日夜横浜出発、当日夜横浜帰着でしたが神田交通(株)様のご協力を得て無事に活動できました。



令和 6 年能登半島地震義援金募集

令和 6 年能登半島地震で被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

KSV ネットでは間接的な支援として被災地への義援金募集を行います。

頂いた義援金は、先遣隊派遣時またはボランティアバス派遣時に被災地に直接お渡します。

義援金の振込先は下記の通りです。皆様のご協力よろしくお願いいたします。

みずほ銀行 鶴見支店(店番号 362) 普通口座(口座番号 3000582)

口座名: トクヒ)カナガワサイガイボランティアネットワーク

横浜市総合防災訓練に出展

開催日: 8 月 27 日

会場: 日産スタジアム第一駐車場



KSV ネットは、展示ブースで ICT を利用した災害ボランティア応募の体験、活動紹介を行い、多くの市民参加者を迎えました。中山横浜市長の激励を受けました。



かながわ消防防災フェアに出展

開催日: 9 月 2 日(土)、3 日(日)

会場: 神奈川県庁本庁舎 象の鼻パーク

KSV ネットは「神奈川県と災害救援ボランティア団体の連携した取り組みの紹介」(かながわ県民活動サポートセンター)ブースに出展し、活動紹介動画の上映、ポスター展示、チラシ配布を行いました。神奈川県は東日本大震災ボランティアステーション事業終了後も「災害救援ボランティア活動支援室」を設置し、災害ボランティア団体との連携をすすめ団体の活動支援をしています。



「ぼうさいこくたい 2023」に出展

開催日: 9 月 17 日(日)~18 日(月・祝)

会場: 横浜国立大学



防災推進国民大会(ぼうさいこくたい)は、国(内閣府等)が主催する全国最大級の防災イベント。2023 年は関東大震災発生から 100 年の節目の年に当たり、神奈川県で開催しました。

KSV ネットは、神奈川県主催セッション「誰一人取り残さない防災を目指して」の全体テーマのもとで、共同企画「関東大震災から 100 年を迎え、これからの大震災における防災対策~自助・共助・公助連携力向上」に「ICT 活用災害ボランティアセンター体験」「防災・減災クイズ」の内容で出展参加しました。クイズコーナーには 2 日間で 1000 人以上の市民参加者があり、関東大震災関連を含めた防災に関する質問の回答を受け取りました。出展に際して「県民活動サポートセンター」「神奈川県社会福祉協議会」「神奈川県共同募金会」のご協力を頂きました。



「ビッグレスキューかながわ」に出展 （令和5年度神奈川県・大井町合同総合防災訓練）

開催日:10月15日(日)

中央会場:未病パレ「ビオトピア」 地域会場:おおい中央公園

県では、大井町と合同で、大正型関東地震の発生を想定し、医療救護活動を主体とした実践的な総合防災訓練である「ビッグレスキューかながわ」を実施しました。この訓練は、医療関係機関を中心とし、自衛隊及び在日米軍等と連携した実践的な医療救護活動訓練を通じ、相互の連携強化を図るとともに、地域防災力の向上を図ること等を目的としています。

KSV ネットは、中央会場の展示体験ブースで「ICT を活用したボランティア応募と受付体験」及び「DITS の紹介と体験」を実施。地域会場では「災害ボランティアセンター設置運営訓練」、「県サポートセンターとの情報伝達訓練」に参加しました。悪天候の中行われたボランティアセンター設置運営訓練では、大井町をはじめ近隣社協の職員がスタッフとして対応し、ICT を活用した運営を体験しました。



かながわコミュニティカレッジ （災害ボランティアコーディネーター基礎講座）

各地で多発する風水害や地震発生時には、災害ボランティア活動が大きな力を発揮します。神奈川県内で発災した際に備えるために、災害時の被災者の状況やボランティア活動について理解し、地域で受援力を高めることが大切です。本講座では、災害ボランティアセンターの役割や、災害時に支援を必要とする方とボランティアをつなぐ、コーディネーターの活動について学びました。

かながわ県民センター・かながわコミュニティカレッジ講義室において、7月29日(土)13時~17時、8月5日(土)10時~16時30分の日程で開催し、受講者は団体申し込みを含めて20名でした。7月29日のグループワーク、8月5日の災害ボランティアセンターシミュレーションには防災講座・図上訓練委員をはじめ13名のスタッフが協力しました。



編集後記

NEWS 第 10 号の発行が遅れてしまいました。発行の間隔が空いてしまったため、今号は 6 ページ立としております。

2024 年 1 月 1 日 16 時 10 分、石川県能登地方を震源とする最大震度 7（志賀町・輪島市）の地震が発生、珠洲市・七尾市・穴水市で最大震度 6 強を観測しました。阪神淡路地震 M7.3 を超える M7.6 を記録する地震でした。一連の能登半島地震では、1 月 14 日 13 時までに震度 4 以上の地震は 50 回を超え、そのうち震度 5 弱以上は 16 回観測しています。1 月 20 日現在、230 人を超える犠牲者の皆様に哀悼の意を捧げると共に被災された皆様にお見舞い申し上げます。

現在も全容が解明されない中、悪天候も重なり、復興へのご支援がままならないことが残念です。今できる支援をさせて頂き、一日も早い直接支援活動にむけて準備を整えています。

（広報委員：大田哲夫・櫻井展子・田口謙吉・石田昌美・丸山善弘）



この広報誌は共同募金年末助け合い分配金で発行しています